

## 1. はじめに

今回筆者らは、東京都立大学大学院生清水誠治氏の御厚意により、愛媛県西宇和郡三崎町（にしうわぐんみさきちょう）における氏のアクセント調査（読み上げ式）に同行することができた。その際、三崎町の方言における語彙、文法、音声、アクセント等にみられる特徴的な事象や、発話スタイルによるアクセント実現形の相違、談話の展開や相手による言語選択など、様々な方面から三崎町の方言を分析することを目的として、約1時間の自然談話を採録した。

本稿では、まず分析の足掛りとして、その談話の一部を文字化したものを呈示する。<sup>1</sup>

なお、この談話資料についての分析は本稿では行わず、「愛媛県西宇和郡三崎町方言の談話資料と分析(2)—分析編—」として改めて稿を草したい。分析編では、音声・音韻面、文法面を中心に、自然談話及び質問調査の回答を整理して、記述的な報告を行う。音声・音韻面では、語中のガ行・ダ行子音の鼻音要素、ツの発音（破裂音）、セ・ゼの口蓋化した発音などを、文法面では、二段活用動詞の残存、ヨル・トル（ Chol ）によるアスペクト表現、断定の助動詞ジャ・ヤ、準体助詞ガなどを扱う予定である。特に音声面では特徴的な事象が多いが、今回の文字化資料ではカナ表記をとったために必ずしもその実質を反映させたものにはならなかった。分析編で先行研究の記述と比較しつつ、詳しく報告したいと考えている。

## 2. 三崎町の地理的概観

愛媛県西宇和郡三崎町は、「岬十三里」と呼ばれる佐田岬半島の西端に位置する農漁業の町で、人口およそ 5000 人。北は伊予灘、南は宇和海に面し、伽藍山を主峰とする山地

---

<sup>1</sup> 録音した音声の文字化に当たっては、談話を二分し小西と間淵がそれぞれ文字化を行った後、お互いの担当部分を交換し確認した。なお、表記方法や書式については、田中・清水 1997 を参考とした部分が多い。

が東西に走る。平地に乏しく、段々畑では柑橘類の栽培が行われている。

この町には鉄道はなく、高知県須崎から四国山地を縫い、大洲や八幡浜を経て佐田岬半島を縦断し、ここ三崎から国道フェリーによって九州・佐賀関にまで繋がっている国道197号線が唯一の幹線となっている。かつてこの道は、起伏に富んだ海岸線に沿って走るその劣悪な道路事情から「行くな酷道」と呼ばれ、道の難所として知られていたが、昭和52年に半島中程の伊方町に伊方原子力発電所が開設されてからは整備が目覚ましく、昭和63年には半島の頂上線を一気に走り抜ける「佐田岬メロディーライン」が開通し、それまで三崎から八幡浜まで2時間以上を要していた道程は、急行バスの開通により約1時間に短縮された。なお、現在この急行バスは、松山から直通で一日3往復運行されている。また、この道路事情の飛躍的な向上により、それまで3往復しかなかった国道フェリーは大幅に増便され、更に、メロディーラインが九州四国観光ルートの一環に組み込まれるようになると、それまで八幡浜発で1往復だけ寄港していた別府航路に三崎始発が開設されて、三崎町は、八幡浜と共に九四交通の拠点としての役割を担うようになっている。

今回取り上げるのは、この町の中程に位置する三崎地区で、ここは、役場や高校などがあり、町の中心としての機能も有した所である。

### 3. 調査概要

調査日：1997年3月13日

話者：Y. H氏(男性・大正7年生れ。以下、Y氏とする)

調査者：清水氏(男・昭和44年生)、小西(女・昭和48年生)、間淵(女・昭和47年生)

調査地点：愛媛県西宇和郡三崎町三崎(本稿末地図参照)

話者のY氏は、父母・妻とも三崎町の出身で、三崎町以外での居住歴はない。かつては海運業に携わり、三崎港から主に大阪や広島へ向けて柑橘類や海産物・海産加工物(乾物)を運んだということである。当時は、船以外の交通の便がなく、愛媛県内外に関わらず、船の行き来が主であったが、その後前述の道路の開通により、運送の中心が海運業から道路交通に移った。海運業が振るわなくなって後は、自宅で日用雑貨店を営み、現在は、同店を改装した薬局を経営する娘夫婦と同居している。

調査は、Y氏の自宅において行った。調査者のうち、清水氏は出身が愛媛県で、以前にも一度Y氏からアクセントを御教示いただいており面識があったが、小西、間淵は愛媛県

外の出身で、今回の調査で初めて愛媛県を訪れており、話者との面識もなかった。そのため、同地域の地理的・方言的知識も浅く、話者との会話においても、対応の仕方や会話の進め方に問題があった感は否めない。また、同様の理由により、話者の発話において多少改まった表現も混じっており、三崎町の方言話者同士の会話とは異なると予想される。しかし、会話が進行するにつれて、音声面や文法面においても自然な談話を採録することが出来たのではないかと思う。

## 4. 資料の凡例

### 1列目

行番号を示す。分析編において、該当部分を参照しやすくするために付した番号であり、会話の単位とは対応していない。

### 2列目

発話者をイニシャルで示す。それぞれ、以下のとおり。

Y…話者Y氏    S…清水    K…小西    M…間瀬

### 3列目

話者及び調査者の発話を示す。この際、話者の発話は全て表音的片仮名による表記、調査者の発話は漢字平仮名混じりの表記とした。長音については「ー」で1拍分の長さを示し、それよりも短いものについては「アイウエオ」で示した。連母音の場合で、後節の母音がはっきり聞こえた部分については、「アイウエオ」で示している。

3列目に示した発話の表記にあたっては、以下の記号を用い（○は任意の拍）、ポーズ、アクセント等を示したが、調査者の発話については、②③によるアクセント等の表示はしない。

- ① ○、○：ポーズ（読点としては用いず）
- ② ○「○：上昇（イントネーション、プロミネンスをも含む）
- ③ ○'○：下降
- ④ ○/○：会話の途中で、相手の次の会話が始まった位置
- ⑤ ××：不明瞭で聞き取れない部分（必ずしもモーラ数と対応しない）
- ⑥ < >：不明瞭で文脈から判断した部分
- ⑦ ( )：発話中のあいづち（短い発話が重なる場合も含む）

⑧ … : 言いさし

⑨ ? : 調査者の発話部分における疑問等のイントネーションの上昇

#### 4 列目

方言形の共通語訳、及び注記を示す。話者の発話についてのみ共通語訳したものを普通の字体で示し、その他の発話に対する簡単な注記を「※」の後に斜体で示した。この注記に収まらないものについては、(注 1)~(注 4)として談話資料末に示した。

共通語訳は、なるべく直訳とするよう努めた。また、( )内は意味上の補足、< >内は、共通語訳について自信がない、あるいは話者の発話聞き取れないために訳に疑問が残る部分を、××は、意味が不明な部分を示す。なお、共通語訳部分では、「、」を読点として用いており、話者の方言形の発話部分の表記に用いたポーズを示す「、」とは対応しない。

#### 参考文献

江端義夫 1982 「13 愛媛県の方言」飯豊毅一他『講座方言学 8 - 中国・四国地方の方言 -』国書刊行会

田中江扶・清水誠治 1997 「陸月島方言談話資料(1)「長生きの秘訣」」『日本語研究』第 17 号 (東京都立大学)

大石慎三郎監修 1980 『日本歴史地名大系 39 愛媛県の地名』平凡社

徳川宗賢監修 1989 『日本方言大辞典』小学館

#### 付記

お忙しい中、調査に御協力下さった話者と御家族の方に、深くお礼申し上げます。また、清水誠治氏には、調査をセッティングしていただいたばかりか、現地の地理的・方言的知識等を御教示いただくなど、大変お世話になりました。記して感謝いたします。

但し、本稿における不備等は全て筆者らの責任に帰すべきものであります。

(こにし いずみ・東京都立大学大学院)

(まぶち ようこ・東京都立大学大学院)

Y. H氏(三崎町三崎)方言談話資料

番号	話者	発話	共通語訳・注記
1	S	あの一、天気の見分け方っていうのは、	
2		やっぱりなんか、もう、船の仕事されてる時から…。	
3	Y	「ウ'ン、「ダイダ'イソノ、「クモイキオミ'テ'ナ。	うん。大体その、雲行きを見てね。
4	K	あー。	
5	M	はあい。そうですね。	※同時
6	Y	ソ'ンデ、アサハ「ヤ'クオキ'テ、ソ'ノ、	それで、朝早く起きて、その
7		「クモ'ノ「イゴ'キオミ'ルンデスア'ナ。	雲の動きを見るんですね。
8	K	ええ、ええ、ええ。雲の…	
9	M	動き？	
10	Y	「ク'モノ「ウゴキカタオ。	雲の動き方を。
11	K	うんうんうんうん。	
12	Y	「カゼガズ'ツ'ト「ナ'ア、「アサオキテミ'テ、	風がずーっとね、朝起きてみて、
13		「ソ'ノトキ'ニワカゼワ'ナ'イデ、	その時には風はく風いで、
14		ヨ'ー「ナイド'ル'アイ'ナ、「ナイド'ツ'テ'モ、	良く風いでるよね、風いでいても、
15		「クモ'オミテ'クモ'ガ'コ、	雲を見て雲がこう、
16		「ビ'ュー'ビ'ュー「ビ'ュー'ビ'ュー「ト'ビ'ヨ'ツ'トラ、	ビュービュービュービュー飛んでいたら、
17		コ'ラキ'ョー「ワ'イケ'ン「ソ'ー、	これは今日はいけなぞ。
18		「ヒル'ナカ「カゼガ'デル「ソ'ー。	日中風が出るぞ。
19	M	はあー。	
20	Y	ウ'ン、<「ソ'イ「タ'ラ>ア「サ'ア、「ク'モン、	うん。そうしたら、朝、雲が
21		「イゴ'キ'ョ'ツ'タ、「ソ'ノトキ'ワ「ナ'ギ'デ'モ、	動いていたその時は風でも、
22		「ヒル'ナカカ「ゼガ'デル。コ'ラ「カナ'ラ'ズ'デル。	日中風が出る。これは必ず出る。
23	M	はあー。	
24	Y	(笑)「ソ'リヤ、ノ'ヤ'ツ'パ'リ'ナ。	それはやっぱりね。
25	M	重要ですもんねえ、(Y:笑)天気はねえ。	
26	Y	ウ'ン、マ「フ'ナ'ノ'リ「ワ'マ、	うん。まあ、船乗りはまあ、
27		「ソ'ーユ'ート'コ'ミ'ヨ'ル'ノ'ヨ'ク'ナ、	そういうところをみているのよね。
28		ソ'デ「カナ'ラ「ズ'アサハ「ヨ'ー'ニ'オ'キ'テ'ネ'エ、コ、	それで、必ず朝早くに起きてね、こう
29		「ソ'ラ'オ'ミ'ヨ'ル。	空を見ている。
30	M	ふーん	
31	Y	「キ'ョ'ー'ノ「デ'ン'キ'ワ「ド'ー'カ「ナ'ー'ト'モ'テ。	今日の天気はどうかなあ、とと思って。
32		ア、「コ'ライ'ケ'ン、「コ'ンド'ワ、「コ'ラ、	あ、これはいけない。今度は、これは
33		マ、「カ'リ'ニ、「ワ'タ'シ'ガ'コ'オ	まあ、仮に私がこう、
34		「ミ'ナ'ト'ダ'ス'ト'キ'ニ'ワ「ナ'ア、	港(から船を)出すときにはね、
35		「ウ'ラ'テ'ニ「マ'ワ'ツ'テ'イ「ヨ'ナ'ダ'ガ、	裏手に回って伊予灘が、
36		「ム'コ'ー'ノ「ミ'ナ'ト'エ「ツ'ク'マ'デ'ニ「コ'レ'ア'モ'タ'ン、	向こうの港へ着く途に、これはもたない、
37		「ソ'レ'マ'デ「カ'ゼ'ガ'フ'ク'ク'オ'モ'タ'ラ'モ'ー、	それまでに風が吹くと思ったら、もう
38		「ソ'ノ「ト'キ'ワ'ナイ'デ'オ'ツ'テ'モ、(K:うんうんうん)	その時は風いでいても、
39		ト「チ'ュー'ニ'ヤ'ラ'レ'タ'ライ'ケ'ン'ケ'ン>	途中でやられたらいけないから、
40		「ヨ'ー'ク'デ'ン>「ト'マ'ル。	出ることが出来ない、とまる。
41	S	なるほどね。	
42	Y	「シ'ラン'モノ'ワ、「コ'ン'テ'ン'キ'イ'イ'ガ'ネ	知らない者は、こんなに天気がいいのに、
43		「ア'ノ'ヒ'ト'ワ「フ'ネ'デ'ア'サン'ト、(M:笑)	あの人は船を出さないで、
44		<シ'ヤ'ー>'シ'ト'ル'ト、(K:笑)「コ'ー'オ'モ'ウ'モ。(笑)	<思索>していると、こう思うもの
45			※「シ'ヤ'ー'シ'ト'ル'ト〜」=笑いながら
46	M	そうですねえ。	※笑いながら
47	Y	ウ'ン、ソ'ー、「ソ'ー'ナン。	うんそう。そうなの。※笑いながら
48	M	へえー。	
49	Y	「コ'ノ'カ'ゼ'ワ、「ヒル'マ'デ'マ'タ'ン、	この風は、昼までもたない。
50		「カ'ゼ'ガ'フ'キ'ダ'ス'ケン、	風が吹き出すから、
51		コ'ラ「フ'ネ'ア'ト「ダ'サ'レ'ン「デ'ー。	これは、船はあと出せないぞ。

52	S	なるほどね。	
53	Y	「ソユナニガアラ」ア「ナ。	そういう何があるわな。
54	M	大抵当たってるんでしょねえ／やっぱり。	
55	Y	ウン、「ダ」ア「イヤソ」ラ「アタル」サ。	うん。いやそれは当たるよ。
56	M	そうなんでしょうねえ。へー。生活の知恵ですねえ。	※「ダイヤ」=大抵を受けた言ひ読み
57	Y	(笑)「ソレガナカッ」タラ「ンタ」	それがなかったら、あなた、
58		「フナ」ノリ「ヤレン」、「イマミタ」イナ、	船乗りはできない。今みたいな
59		「ジョーホーガナ」イ「ンヤ」ケン、	情報が無いんだから、
60		／テ「レ」ビ「クヤ」ナンカモ。ウ「ン」。「ジブン」ノ「カンデ、	テレビやなんかも。うん。自分の勘で
61		「ヤラ」ナイ「カ」ン「ノヤ」ク「カラ」。	やらなければいけないのだから。
62	M	そうですね。うん。(Y:ウ「ン」)	うん。
63		そうですね。(Y:ウ「ン」ウ「ン」)天気予報が	うんうん。
64		毎日あるわけじゃないですものね。	
65	Y	イ「マゴロ」ワ「ソユナ」ン「シエ、	今頃は、そういう、なにせ
66		「テレ」ビモ「フエル」ン「デ、	テレビも増えるので、大概に
67		「ジョーホー」ガ「ナ」ア、「タイフ」ー「ガキ」タラ、(笑)	情報がね、台風が来たら
68		「ミッカモヨッカ」モ「サキカ」ラ「ワカ」ル「ケン。	三日も四日も先からわかるから。
69		ア、「ドコソガマ」デ「キ」タ、	あ、どこそこまで来た、
70		「ドコソガマ」デ「キ」タ「アユウ」ン。	どこそこまで来た、っていうのが。
71	K	うーん。	
72	Y	「ワタシ」ラ「ナンシエ、	私らなにせ、それが無かったんだ、
73		ソ「ナソレ、	若い時分。※「シナ」=「ミナ」に近い。
74	S	なるほどねえ。	
75	Y	デ、「コノクモ」ワ、「コラ」、「トゥオーナル、	それで、この雲はこれは強くなる、これは
76		イ「ケン」ソ「ーヨース」ル「ニ、	いけないぞー、って要するに
77		「ジブン」デ「ミサダメ」テ「イカ」ナ「イケン」ケ「ン」。	自分で見定めていかなければいけないから。
78			
79	S	あー、そうですねえー。あの、こちらがわと、	
80		宇和海側の一、あの一、風が来た一、	
81		やっぱりむこうの瀬戸内／側のと…	
82	Y	ウン。「コレ」、「アノ」、「ミサ」キ「ノアノ、	うん。これはあの、岬のあの、
83		「サダミサ」キ「オ」マ「ワツタ」ク「ラ、	佐田岬を回ったら
84		「チガウ」ン「デクシ」ー「ジャ」ナ「ア。ウ「ン」。	く違うんでしょね。>うん。
85	S	ちがうでしょうね	
86	M	あ、そうなんですか。	
87	Y	ウ「ワ」カ「イワ」ダイ「タイ」コ「ノ、	宇和海は、大体この、南風が、
88		(S:あー)「ナミ」ガ、「キト」ル「シ」ナ、	波が来ているしね、ある程度。
89	S	なるほどねえ。	
90	Y	デ、コノ「セト」ナ「イカ」イ「マ」ワツ「タ」ラ、	うん。それで、この瀬戸内海を回ったら、
91		「ミナミカゼ」ワ、「コノ」ハ「ントー」ノ「コ」レ「デ、	南風はこの半島のこれで、
92		(S:あー、なるほど)「ヨケ」ル「ン」デ「ナ。	よけるのでね。
93	M	いえー、なるほど。	
94	Y	ソ「デ、	それで、11月12月頃に
95		「ジュー」イ「チ」ガツ「ジュー」ニ「ガツ」ゴ「ロ	なったら今度、季節風が吹くでしょう。
96	S	「ナツ」ダ「ラ」コ「ンド、	
97	Y	キ「シエツ」フ「ーガ」フ「ク」デ「シヨ。	
98	S	あー、季節風がね。	
99	Y	「コイツガマ」タ、	こいつがまた、瀬戸内海を××××ね。
100	S	「コイツガマ」タ、	
101	S	「コイツガマ」タ、	
102	Y	「コイツガマ」タ、	
103	S	あー。／なるほど。	
104	K	こち。／「こち」って言うんですか。	
105	Y	「アナ」ジ「トカ、	「あなじ」とか。「こち」のまあ、

106		「モット'モコオヒ「ガ」シノ「ナ」ア。「ヒガシカクゼ」ノ。」	〈もっともこう〉東のね。東風の。
107	K	ええ、ええ。ひがしかぜ。	
108	Y	「ミナミカゼ」ワ、「マジ。」	南風は「まじ」
109	K	まじ。	
110	M	まじ。	
111	K	まじ。(約3秒)	※ほぼ同時
112	S	あなじっていうのは?	
113	Y	「アナ」ジワ、ホ「クセー。」	「あなじ」は北西。
114	SKM	北西。	
115	S	なるほどね。	
116	Y	「コレワー、モーイマ「キシエツフー、	これは、もう今、季節風、
117		「コノ」ヘンデイ「エ」バモーキ「シエ」ツノカゼ'ヨ「ナ」ア、	この辺で言えばもう、季節の風だよな。
118		「ジューイチガ」ツクカノ、「ウエブンノ、」	11月か、冬時分の。
119		「コ」ラ「ヨ」ーフク「ナ」ア、「ツヨ」イゾコレ「ガ」ナ」ア。	これはよく吹くなあ。強いぞこれがね。
120	K	えーえーえーえー。	
121	S	あーそうですか。	
122	Y	ア'ー。	ああ。
123	S	これは二名津(フナヅ)のあたりから	
124		吹き降ろしてくる／わけですか。	
125	Y	「ソ」ーソーソー「コッチ」カラ「ナ、イヤ、	そうそうそう、こっちからだね。いや、
126		「モオ」/チョット「コッチ」/ジャ、	もうちょっとこっちだ、
127		「サダミサ」キノホ'ー。	佐田岬の方。
128	S	あっ、すいません。／間違え。向うの方ですよ。	
129	Y	ウン。	うん。
130	S	あ、二名津は違う、そうですよね。	
131	Y	「フタナズー、又、カラフク」ユーコト'ンナツタ'ラ、	二名津から吹くということになったら、
132		「キタニチョット」コチガ'、/カカッ'トル)、	北にちょっと東風が、かかっている。
133		ヒ「ガ」シガカカッ'チョル「ナ。」	東がかかっているね。
134	S	ああ。かかって…	
135	K	こち。こちなんですよね。	
136	Y	「キタ」ゴチ。	「きたごち」
137	S	きたごち。	
138	M	きたごち。(笑)	
139	Y	「キタニ」ヒガシガ、(笑)「ヒガシガ」ネ。	北に東が、東がね。
140		〈「キルカ」イヤ「ナ。」〉	××××だね。
141	M	へえー	
142	Y	ウン、ホ「クトーオ、キタ」ゴチ、キタ」ゴチ。	うん。北東を「きたごち」「きたごち」
143	S	きたごち。(Y:ウン)	うん。
144	K	きたごち。	
145	Y	フ「タナズア」タリ「カ」ラフキダスガヤッ「タ」ラ	二名津辺りから吹き出すのだったら、
146		ホ「クトー…。	北東…。
147	S	きたごち。	
148	Y	ナ'ア。	ねえ。
149	S	じゃー、灘のほうから吹いてくると…。	
150	Y	「アレ、」ナダノホ'ーカラファイ「テクル」トモ'ー、	あれ、灘の方から吹いてくると、もう
151		イ「マ」くイシ)、「ホクセー。」	〈つまり(注1)〉、北西。
152	S	ほくせい。	
153	Y	ウン。	うん。
154	S	あなじ(Y:ウン)になるんですね	
155	M	ふうん。(2秒)	
156	S	なるほどねえ。じゃ、向うの井野浦(イワ)がたから	
157		吹いてくる、っていうのは…。	
158	Y	イ「ノ」ウラカラファイ「タ」ラ、チョット、マ「ジ」ニ、	井野浦から吹いたら、ちょっと「まじ」に、
159		「ミナミニチョット」ニジンカカッ'ト'ノ'ル。	南にちょっと西が掛かっている。

160	S	かかっている、あー。そういう言い方はないんですか。	
161		まじにちょっと、／西…。	
162	Y	マ「ジ」ニシ、マ「ジ」ニシ。	「まじにし」「まじにし」。
163	S	まじにし。	
164	K	まじにし。	
165	M	はあーい？(Y:笑)へえー。	
166	S	なるほど。ようするに…。	
167	Y	〈マ「ジ」××××マ〉、	〈「まじ」×××××〉、
168		「ミナミニチョッ」トニ「シガカカツ」ト／ルヤツ。	南にちょっと西がかかっているやつ。
169	S	あー、(K:うーん。)かかっている。	
170	S	じゃ、今度名取(ナトリ)の方角から…	
171	Y	「ナト」リノホーカラデルヤツ「ガ、コラ、	名取の方から出るやつが、これは、
172		「コ」ンドア「レ」ニナル<ノヨ>。	今度あれになるのよ。
173		「ナト」リヨリモ「チョッ」ト、(咳)／	名取よりもちょっと
174		「イノウラヨリニナルカ「ナ」ア。	井野浦寄りになるかな。
175	S	ちょっとこっち	
176	S	はい。	
177	Y	ダッ「ダ」ラ、コラ、「マ」ジ。	だったら、これは「まじ」。
178	S	はい。	
179	Y	「ミナミ」カゼ。	南風。
180	S	まじ。まじ。なるほどねえ。(約1秒)	
181	M	へえー。	
182	Y	ナア、モナ「ト」リグライカラデ「ダ」ラ	名取くらいから出たら
183		「コチマジヤ「ナ」ア。	「こちまじ」だね。
184	S	こちまじ。なるほどね。	
185	M	こちまじ。	
186	K	こちまじですか。	
187	Y	「ヒガシミ」ナミヤ「ナ」。	東南だね。
188	S	ひがしみなみ。	
189	Y	「ナント」ーヤ「ナ」。	南東だね。
190	K	うーん。(約2秒)	
191	S	夜、航行されるってことはあまり無かったんですか、	
192		ふね。	
193	Y	イヤ、「エ、ヤリ」マス「ヨ」。	いや。え、やりますよ。
194	S	やっぱり夜。	
195	Y	ウン。	うん。
196	S	そーういった場合もやっぱり風向きとか、あと、	
197		月の一、月はあんまり関係無いんですか、	
198		そういう場合って…。	
199	Y	ウー、デン、マー、ソー、(笑)	うーん、まー、そー。
200		「ツキ」ニムラクモ<ヤケン>、「ヨ」ー「ツキ」オ「コス、	「月に群蟹」だから、よく月を越す
201		「クモ」ワ「ナ」、「ヨ」ー「ワカ」ル<モ>「ヨ」ー「キガ」ナ。	蟹はね、よく分かるもの、陽気がね。
202	S	あー、(Y:ウー)なるほどねー。	うん。
203	M	なんか、夕焼けだと、明日は晴れとか、(笑)	
204		それくらいですよ／私たちが知識として	
205		持っているのは。	
206	Y	ウー、「ユーヤケ、「コノオ、「ユウヤケモ、	うん、夕焼け…、この夕焼けも
207		ナ「ツ」ノ、ナ「ニワイケマゼ」ンガネ。	夏の何(夕焼け)はいけませんね。
208		「アメ」ナンデス。	雨なんです。
209	M	あ、そう／なんですか？	
210	Y	ア「キノユーヤケワ、エ」ーケド「ナ」。	秋の夕焼けはいいけれどね。
211	M	あー、／そうなんですか。	
212	Y	ア「キノユーヤケワカマトイ」、「コノ」ヘンデワ「ネ」エ、	秋の夕焼けは鎌研い…、この辺ではね、
213		ア「キノユーヤケワ、「カマオトイデ、	秋の夕焼けは鎌を研いで、



214		ア「シタノジュンビシ「チョケ…。	明日の準備しておけ…。
215	MK	あー、あー、あー。	
216	Y	ヤ「マ'イク、(K:えー。)'カマ'オトイド'イ<テ>。	山へ行く、鎌を研いでおいて。
217	K	秋の夕焼けは、鎌を研げって。	
218	Y	カ「マト'イデマツ「チョ'レツ、(笑)	鎌を研いでまっている、
219		／「アシタデ'ンギンナル。	明日は天気になる。※笑いながら
220	K	あ、鎌研いでまっちゃれ。	
221	Y	ソレワア「キノコト'デ、ウン。	それは秋のことで、うん。
222		マタ「アキノユー'ヒ'ワ「キレ'ェナン'ヤコレガ「ナ'ア。	また秋の夕陽は綺麗なんだ、これがね。
223	M	そうでしょうねえー。(Y:笑)	
224	Y	コレ、ナ「ツ'ニ、	これ、夏に
225		「イマ'シ「ユーヤケ'くシタツ「ツ'ワ	くつまり(注2)夕焼けしたというのは>
226		イケン、(S:はー。)'コラ'ア「メガオー'イ。	いけない、これは雨が多い。
227	M	そうなんですか。	
228	Y	「オナジ'ユーヤケデ'モ。(笑)	同じ夕焼けでも。
229	M	それは初めて知った。(笑)勉強になりました。	
230	K	こちらのその気候ー、の、その独特さっていうのが	
231		あるんでしょうかね。その夏ー、が、(Y:ソ…)	
232		夏の夕焼けだと明日は雨が降るっていうのは。	
233	Y	ウー'ン。	うーん。
234	K	三崎では、そうだっ、/ていう…。	
235	Y	「コレワヤツ'バリ、「ソーヤナ'ー、「ナツ'ー、	これはやっぱり、そうだねえ、夏は
236		ド「コデモオンナジ'ヤ'ロー「ナ'ア、ウ'ン。	どこでも同じだろうねえ、うん。
237	K	どこでも同じですか。はー。(約2秒)	
238	Y	ド「コデモダイタイアキ'ノユーヤケ「ワ'エツ、	どこでも大体、秋の夕焼けはいい。
239		「テンキ'ガエ'ーワイ「ナ'ア。	天気がいいよねえ。
240	K	あーあーえーえー、あーそうなん/ですか。	
241	Y	ウ'ン。	
242	S	へー。(約2秒)	
243	M	天気予報いらすなんですね。(Y:笑)いいですね、	
244		わかるんですもんねえ。私達なんてもうテレビで、	
245		とか新聞とかで見るしかないですもの…。	
246	Y	ソデワタシ'ラ、マ'ダワカ'イ<ジク「レノ>ジブ'ンワ、	それで私ら、まだ若い××××の時分は、
247		モウ「アサー'ホ「ンデハヤ'イン、「アサ'ワ「ネ。	朝はそれで早い、朝はね。
248		「アサノハヤー'イクモ'ノコオ、	朝の早い(時間の)雲のこう、
249		「ヨノアケ'タトキノ「クモ'ノウ「ゴ'キオ	夜の明けた時の雲の動きを
250		ミ'ナイケンカ'ラ、	みなければいけないから、
251		「カナラズフネ'デデ'ルトキニヤコー「ミヨ'ル。(笑)	必ず船で出るときには、こう見ている。
252		「ホカノヒト、アレ「ナンシト'ルンヤ「ネ	他の人は、あれ何しているんだろうね
253		チューグライニ「オモ'ンヤロオ<ケド>(笑)、ソ、	くらいに思うのだろうけれど、
254		「コツ'チニスリヤ「ソー'ヤナ「イ'ン、「ナ'ア。(笑)	こっちにしたらそうじゃないの、ねえ。
255		「クモ'ノウゴ'キジツ「トミヨ'ルンヤ'ケン、	雲の動きをじっと見ているんだから。
256		ハア、コラ「ミナミノカゼ'ガ	はー、これは南の風が
257		「コオユウウゴキカダシヨ'ルナ'ア、	こういう動き方をしているな、
258		コライケン「ドー、コラー<トモ'テ>。(笑)	これはいけないぞ、これは、と。思って。
259	S	あー。	※「ホカノヒトへヤロケド」笑いながら
260	M	へー。	※SM同時。
261	Y	「ミナトデワルカッ'タラ、	港で悪かったら、
262		「コラハ'ヨドコソコマ'デイッテ、	これは早くどこそまで行って、
263		「エイット'コ'エ「ハイツ'トガ'ナイケント	良い所へ入っておかなきゃいけないと
264		オモ'テ「ナ(笑)。	思っかね。
265	S	あーあーなるほど。	
266	Y	「タイフー'ジ'ブンナン×ヤツタラ「トク'ニ「ナ。ウン。	台風の時なん××××だったら特にね。うん。
267		「エーミナト'トラ'ナイケンケン。(S:んー。)	いい港を通らなければいけないから。

268	「ワル'イミナトトーツ'タラ'ク'ロースル'ケン'ナ。	悪い港を通ったら苦勞するからね。
269	(笑)	
270	S あー/そうですくよねー	
271	Y モー、「ココ'ラニワオ'レ'ンノヤ'ケン'ナ、	もう、この辺には居られないんだからね、
272	「ミサ'キアタ'リニワ。/「タイフー'ナツ'タラ。ウ'ン。	三崎あたりには。台風になったら。うん。
273	M あーそうですか。	
274	S 直撃ですよ。宇和海…	
275	Y アー。	ああ。
276	M あそー。	
277	Y 「モー'ヤワタ'ハマエニ'ゲ'ルカ(S:あー)、ウ'ン、	もう、八幡浜へ逃げるか、うん、
278	「アッチ'エ、「ヒッコ'サ'ナ。	あっちへ引越さないよ。
279	S 半島まわって三機の辺りとかへは。	
280	Y ミ'ツクエ'アタ'リ、ミ'ツクエ'マ'デイ'ツタラ'ク'アト>	三機あたり、三機までいったら<あと>
281	オ'レ'マ'スケド(S:あー、そうですか)ナ、	居られますけどね。
282	ア'ソ'コ'ワ'ン'ガエ'ー'ケ。	あそこは湾がいいから。
283	S うんうんうん。	
284	M ふうん。	
285	S こっち側の宇和海側っていうのは/もう…	
286	Y ウ'ワ'カイ'ガ'ワ'ヤ'ツ'パ'リー、「ダ'メ'ヤ'ナ'ア。	宇和海側はやっぱりだめだね。
287	S あーそうですかー。	
288	Y ヤ'ワ'タ'ハマ'カ'ウ'ワ'ジ'マ。	八幡浜か宇和島。
289	S あー、ちょっと湾になっている/ところ…	
290	Y 「ウ'ン、「ミ'イ'カー'メ'ア'タ'リ'ハイ'ラ'ント'ナ。	うん。三瓶(ミカメ)辺りに入らないとね。
291	S あーなるほど。三崎でもだめ。	
292	Y 「ミ'サ'キ'ワ'「ダ'メ'ヤ'ナ(S:だめですか…)、	三崎はだめだね、
293	「タイフ'ー'ナ'ツ'タ'ラ。	台風になったら。
294	M へえー。	
295	Y モー、「コマ'イ'リ'ョー'セ'ン'ワ	もう、小さい漁船は
296	「ノ'コ'ジ'ヨ'ル'ケ'ド'ナ'ア、「ミ'ナ'ト'ー'ナ'カ'ニ。	残しているけれどね、港の中に。
297	S あーあーあー	
298	Y ソイ'デア'ノ、「コマ'イ'リ'ョー'セ'ン'デ'モ、	それであの、小さい漁船でも、
299	「チョ'ッ'ト'ナ'ン'ク'ダ'ヤ'ツ'ワ、	ちょっと何な(ちょっとした)ものは、
300	モ'ス'グ'モー、(S:あー)「マ'エ'ニ(S:そーですかー)、	もう、すぐもう、前に、
301	(咳)「タイフ'ウ'ガ'ク'ル'マ'エ'カ、ソ'ノ'マ'エ'ノ'ヒ'グ'ライ	台風が来る前かその前の日くらい、
302	ニ'「サン'チ(笑)サ'キ'ニ'モー'イ'ツ'ト'ル。	2、3日まえにもう行っている。
303	/ヤ'ワ'タ'ハマ'ノ'ホ'ー'ニ。	八幡浜の方に。
304	S あーそうですか。	
305	Y アー。	ああ。
306	M そんなにわかるんですか。そんな。	
307	Y 「サイ'キン'ワ'ナ'ー、<イ'マ'イ'シ'ニ'ソ'ノ…>	最近はねえ。〈つまり(注3)その…〉
308	M あー、うんうん。	
309	Y 「テレ'ビ'ノ'「テン'キ'ヨ'ホ'ー'ガ(M:ねえ)	テレビの天気予報が
310	「タイフ'ウ'シ'ラ'スケ'ン、<「ワ'シ'ラ'ナ'ン'シ'ロ>、	台風を知らせるから。私たちなりにしろ、
311	ソ'ノ'「ナイ'ジ'ブン'ニ'ワ、	それが無い頃には
312	ソ'ラ'モ'「タイ'ヘ'ン'ヤ'ツ'タ'ヨ'「ナ'ア。	それはもう大変だったよね。
313	M ええ。	
314	Y ソ'デ、「テン'キ'ミ'ル'ノ'ガ'ナ'ツ'「カ'ナ'カ、コ'レ'ガ。	それで、天気を見るのが中々これが。
315	S あー、/やっぱり。	
316	Y ウ'ン、「コ'レ'ガ'モ'イ'チ'バン'オー'シ'ゴ'ト。(笑)	これがもう、一番大仕事。
317	K 大仕事。(笑)	
318	M ですよ。え。(笑)	
319	Y ンー。(笑)(4秒)	うん。
320	Y コ'ノ'ゴ'ロ'テン'キ'ヨ'ホ'ー'モ'ヨ'オ	このごろ天気予報もよく
321	ア'タ'リ'ヨ'ク'ケ'ド、モー'「マ'エ'ク'マ'エ'ヤ'ツ'タ'ラ、	当たっているが、もう前だったら、

322		「コノ、テレ'ピノ'ナニ'ヨリ、	この、テレビの何(天気予報)より、
323		コッ'チデ(M:自分で)/コッ'チデミタ'ノガ'ヨ'オ	こっちで、こっちで見た方がよく
324		ア'ダ'リヨッタモン'ナ。	当たっていたものね。
325	M	(笑)	
326	K	(笑)そうですか。(笑)	
327	Y	「サイキンワコレワモー、「ナンニ'ナッテ'ナ、	最近はこれはもう、何になってね、
328		「テレ'ピモー。	テレビも。*コレワモー=笑いながら
329	KM	ええ。	
330	Y	ウン。	うん。
331	M	へえー。	
332	Y	「アレ'キ'ショーエ'ーセーカナ'ンカデ	あれ、気象衛星か何かで、
333		「ウエノホ'オエ'トマッ'テ'ミヨ'ルケン、カ、	上の方に止まって見ているから、
334		「ダイブカクジツニナッダ'ケド'ナ'ア。(笑)(4秒)	大分随喜になったけどね。
335	M	へえー。(笑)そういうの、なんか教えて	
336		いただきたいですよ。あのー、	
337		どうだっていうの。伝授されたいですよ。	
338	Y	(笑)	
339	M	自分で、こう見て、分かるといいなあなんて。	
340		ねえ。(3秒)そういうのは、こう、言い、	
341		言い伝えっていうか、こう、漁師さんたちの間で、	
342		そういうふうに言われてるっていうので	
343		分かるんですか?それとも、自分で、あの、	
344		空の様子を見て、こういうときはこうだったなあっ	
345		ていう、経験でー…	
346	Y	「ソー'ヤッパ'ケケケンヨ'オ'ナ'ア、	そう、やっぱり経験だよ、
347		「ソリヤー。	それは。
348	M	経験ですか。	
349	Y	ウン。	うん。
350	M	ふうん。ああ、そうなんですか。>	
351	Y	「サヤッパケケケンガナカッタ'ラ	それはやっぱり経験がなかったら
352		イケナイ'ナ'ー。ウン。	いけないね。うん。
353	M	ああ、そうなんですか。>	
354	Y	ジ'ブンガ'ミ'デ'エ、「ケケケンセ'ナ。	自分が見て経験しなければ。
355	SKM	ふうん。	
356	Y	ウン。ソイ'デ、<'コ'キナンカ>ゴ'カイシヨッ'テ	うん。それで<東風か何か>誤解していて
357		ト'チューデ'ウ'タ'レテ、イ'ク'ルヤ	途中で(風雨に)うたれて、生きるか
358		シヌ'ルノ'エラ'イメシ'テ、/(笑)	死ぬかの大変な目にあって、
359	M	そうですねー。	
360	S	ああ、/そうですね。	
361	Y	「ソレゴ'ソ、コレワイ'ケン'コレアヨー	それこそ、これはいけない、これはよく
362		オボエ'チョカ'ナイ'ケン'ト	覚えておかないといけない、と
363		オモ'テ'ナ'ー。(笑)	思っただ。
364	K	やっぱ、あの、天気を見て、今日は大丈夫と思って	
365		行っても、途中で、急に、/変ったりすることも…	
366	Y	「アッ、「ソレワヤッパ'ア'ルノ'ヨ'ナ'ー。	あ、それはやっぱりあるのよね。
367	K	そいで、じゃあ、あの、どこかの港に、	
368		(Y:ウン。)緊急に、あのー、入ったりすることも	うん。
369		あるん/ですか。	
370	Y	「アル'アル。「ア'ー、<オ'ーX>'ト'チューデ	あるある。×××途中で
371		ヤレ'ント'ナ'ー。	(舟を)進められないとね。
372	K	途中で。	
373	Y	ウン。	うん。
374	K	ええ、ええ、ええ、ええ。そういうのは、	
375		その岬に突然行って、それで、今こういう事情で	

376		入りたいんですけどっていうのを、入ってから、	
377		話すんですか？	
378	Y	「ソレネカリ'ニネ'ー、ア「タシ'ラガ、「ソノ、	それね、仮にね、私たちがその、
379		「ハ'ンシンノホ'ー、「ノボッテ'カラ	阪神のほうに上ってから
380		「カ'エツテクル'デ「シヨ'オ。	帰ってくるでしょう？
381	K	ええ、ええ。	
382	Y	「ソイタ'ラ「ダ'イイチ'バンニコノマ「ツヤマ'、コー。	そうしたら、第一番にこの松山港。
383	K	松山港。	
384	Y	ア「シコオ<ハナ'シタ'ラ>、	あそこを<離したら>、
385		「コ'ンド「チョッ'トネ'ー、「コ'ンド	今度はちょっとね、ちょっと、
386		「イヨナダ'ユテズー'ト「ンナン'ノ'ン	伊予灘と違ってずっと南のほうに
387		「ナルケン'ナ'ー。「コイデ'イ「チバン'ソ「コー、	なるからね。これで一番そこを
388		ソ「コオ、「デルトキ'ニ、「コレアヒヨリミサ、	そこを出るときに、これは日和をみさ…、
389		ミ「サダメ'テデル'ノ'ヨナ'ー。	見定めて出るのよね。
390	M	ああ。	
391	S	ほお。	※M・Sほぼ同時。
392	Y	「チョッ'ト「ミサ'キ、「ココ'マデ「カエル'ノニ「ネ'ー、	ちょっと三崎に、ここまで帰るのにね、
393		「オハナマ'デカエル'ノニ、「チョッ'ト	御鼻まで帰るのに、ちょっと
394		ロ「クジカングラ'イカガル。	6時間ぐらいかかる。※御鼻=佐田岬の通称
395	M	あ、そうですかー。	
396	Y	マ「ツ'ヤマカ'ラ。	松山から。
397	K	松山から/ここまで。	
398	Y	マ「ツ'ヤマカ'ラ。	松山から。
399	M	そんなににかか…	
400	Y	「ソデ、ソ「ノアイ'ダコレヒ「ヨリガ'モ「ツカー。	それで、その間にこれ、日和が持つか。
401	S	(笑)	
402	Y	ト「チューデ'ヤラレタ'ラ「オーゴト。「ソラ、	途中でやられたらおおごと。それは、
403		ト「チューデ'ソラーモ'オ「クロ'ーシタコト'モ	途中でそれはもう苦労したことも
404		ア「リマス'ワナ。ウ'ン。	ありますわね。うん。
405	K	あ、そうですかー。	※トチューデ~オーゴト=笑いながら。
406	Y	「ホンデ'ソ「コ'デマタネ'エ、<ツ「ヨ'ー>「ミアウ、	それで、そこでまたね、××××、
407		ミ「サダメ'テ、「ヨッ'シャ「ダイジョ'ブジャ、カ	見定めて、よっしゃ、大丈夫だ。
408		ヤ「レッ'トオモツテコー「ヤリヨ'ル。	出せつ。と思って、こう舟を出している。
409		「フユウミ'ヤッタ'ラ「オー'インコレガ。	冬の海だったら、多いの、これが。
410		イマキ「シェツフーガフキダ'シタラ、(S:はあ。)	今、季節風が吹き出したら、
411		「ホッデ'ワ「タシ'ワネ'エ、<ナンカエリンフネ	それで私はね、<帰りに船を
412		ダ'スンヤッタ'ラ>、マ「ツ'ヤマカ'ラサ「ダミサ'キ	出すのだったら>、松山から佐田岬に
413		ムケテ「チョッコーセン'ツーン'デ、「コ'ンド	向けて直行しないということで、今度は
414		ア「レ'ムイテハシ'ルンデス'ワ。	あれを向いて走るんですわ。
415		「ヤマグチ'ケンノーアノ、「イワイ'ジマノホ'ー	山口県の、あの、祝島の方に
416		ムケテ。(S:はあー。)<ソエカラアノ	向けて。それからあの
417		オーイタ'ケンノ「ヒメ'シマムケテ	大分県の姫島に向けて
418		ハシッ'トイテネ'エ、(M:ええ。)<ソレカラコ'ンド	走っておいてね、それから今度は
419		オ「ハナムケテ「キョ'リニシタ'ラ「バイ'ワアル。	御鼻にむけて、距離にしたら倍はある。
420		「ユック'リ「バイ'ワアル。「ダ'ケドコ'ンド	たっぶり倍はある。だけど今度
421		カ「ゼムキアホクセーガオー'イケネ'エ。「コレカラ、	風向きは北西が多いからね。これから、
422		「イマ、「ソノ'コースオト'ーツテイッ「テオッ'タラ、	今度そのコースを通って行っていたら
423		「キュー'シユ、「キュー'シューノヒ「メ'シマ	九州、※伊予のどろ九州の姫島の
424		チカ'クマ'デ<「トリツイ>トッ'タラネ'エ、	近くまで<たどりつい>ていたらね、
425		「コ'ンド「ホクセーノカゼガソー'トフイデ'モ、	今度は北西の風がソーと吹いても
426		「フネ'ノ「ケツ'カラクルモ'ンヤ'カラ、	船の後ろから来るものだから、
427		「コレ'ガヤレ'ルノ'ヨ。(KMS:はあー。)	これが進めるのよ。
428		「マエカラキタ'リヨ「コカラキタ'リ	前から来たり横から来たり
429		「スル'ンジャ「ナ'ク、「ケツ'カラ	するのではなく、後ろから

430	オシテクレ'ルケンナ'ー。「ホイデ	押してくれるからね。それで、
431	<フユ×'××ナンカ>「ナ'ア、	<冬なんか>ね、倍ほどの
432	「キョリ'ワアル'ンヤケ'ド、	距離はあるんだけど、それでもやっぱり
433	「ソエデ<モ>ヤツパ'リ	そう、九州に向けて走っておいて、
434	ソオ'キュー'シュームケ'テ「ハシツ'トイ'テ、	それで御鼻に向けてずっと
435	(M:へえー。)'ホイ'デオ'ハナムケ'テズ「ーツ'ト	(船を)戻してくる。
436	S ふうーん。	※アルンヤケド=笑いながら
437	Y 「パイ'ワユック'リア「ル'ケン「ナ'ー、アレ、	倍はたっぷりあるからね、あれ、
438	「マツ'ヤマカラ、	松山から、九州の
439	ミ「サ'キムケ'テ、(Sええ。)'ヤ「ル'ンヤ'ケン>。	三崎に向けて、進めるのだから。
440	「モーブ'ユナツ'ト「ソレガオ'ーイ。	もう冬になるとそれが多い。
441	S ほお。風の力でね。	
442	Y ウ'ン。ト「チューデー、ソー、	うん、途中で、やられたら
443	「ヤラレタ'ライケ'ンケンナ'ー。	いけないからね。
444	S はあ。そうですねー。	
445	K うんうん。	
446	M そうですよねー。	※SKM ほぼ同時
447	Y 「ト、	<そこさえ>渡ってきたら、もう、少々
448	「ソレサエワタツタ'ラモー、	吹いてもね、船の後ろからこう
449	「ショーショ'ー	吹くようになるから、風や波が。それが
450	「フイテ'モ「ネ'ー、	いい。それと、佐田岬がね、潮の
451	「フネノケツ'カラコー、	流れが早いからね、よく
452	「クヨ'ンナルカ'ラ、カ「ゼーナミ'ガ。	<時化するの、これ。>荒れるのよね。それで
453	「ソレガ'イー、	そこをどの時間に、今日の、
454	「ソレ「ト、	潮が何時何分にあそこが
455	「サダミサ'キガネ'エ、	満潮になるから、何時から引くから、
456	「シオノ'ナガレ'ガハヤ'イケンネ'エ、	何時が干潮だから、それで
457	「シオ'ガナンジナンプ'ンニア「シコ'ガ	それを見て渡るわけ。うん。
458	「マンチョ'ンナルカ'ラ、	<いつとはなしに(注4)>渡ったら今度、
459	「ナ'ンジカラ「ヒクカ'ラ、	ちょっと波でもあるときだったら、
460	「ナ'ンジガ「カンチャー'ヤ'カラ、	おおごとだからね。時化て
461	「ホイデカ(笑)	時化て。それでそこが一番、その、まあ、
462	「ソレオミテワタ'ルワ'ケ。ウ'ン。	一番引いた時にはいいわね。
463	<イ「ツバリ>ワタツタ'ラコ'ンド、	<どちらかと言うと。>それでそれを、
464	「チョツ'ト「ナミ'デモアルト'キヤツタ'ラ、	その時間にそこを渡るように、
465	「オ「ーゴト'ヤケンナ'ー。(M:はあー。)	時間を計て、<戻して>くるんだね。
466	「シケ'テ	時間がまずかったらもう、どうにも
467	「ホッデソ'コノイチバンソ'ノー、	ならない。<時化てね。>こっちに帰るわ、
468	「マ、	もう、潮は満ちてきているわと言ったら、
469	「イ「チバンヒ'ー'タト「キ'ニアエ'ワ「ナ'ー。	船の底ほどに<付いて来るぐらいに>、
470	<ド「チュ'タラ。>「ソデソ'レオ、	潮の流れが。うん。それに<出くわしたら>
471	「ソノジ「カ'ンニソ'コオ'ワタレヨ'ー「ニ、	おおごと。
472	S はあー。	※(フネノソコ)グライニ〜=笑いながら
473	KM ええ。	
474	Y ソンデ/ウ「カ'ウカナンデ'ケン>。(4秒)	それで、うかうかなんてできない。
475	S おおごとですよ。	
476	M やっぱり命かかりますからね。	※全体、笑いながら
477	S ねえ。	※Mに対して
478	Y (笑)「ソ'ーイノ'チ(笑)、カケト'ルンヤ'ケン。	そう、命をかけているんだから。
479	(笑)	※全体、笑いながら
480	M そうですよええー。(3秒)	
481	S なるほど/ねー。	
482	M ねー。	
483	Y ナンノシゴト「ヤツ'テモ、ナ「カナカ'デス'ワ。(笑)	何の仕事やってもなかなかですわ。

484		「ラ'クニワイ「カンワ。(笑)	楽にはいかないよ。
485	KMS	(笑)	
486	Y	「ソ、「ア、「テ'ンキノエート'キワ、「ソラ、	天気の良いときは、それは、
487		「コンナエ'ーノナイデスゾ「ー。(笑)「ホッ'ケー	こんないいの(=仕事)ないですよ。だから、
488		「ノンキ'ニ、く「ノンキ'ニ、>「ノ'ンキニ「ヤレルケ'ド。	香気に香気に(船を)進められるけど。
489	K	大阪までは、じゃあ、松山まで6時間だとすると、	※この部分全て笑いながら。
490		大阪までは/何時間ぐらい…。	
491	Y	「オーサカ'デネ'ー、「チョッ'ト「サンジュージカ'、ノー	大阪までね、ちょっと30時間
492		グラ'イ/カカル。(笑)	ぐらいかかる。※「ジカン」と言おうとして
493	K	30時間！一日以上ですね。	迷い、カの後にはポーズが入る。
494	M	すごいですねー。	
495	K	そうですか。	※KとY始まりほぼ同時。
496	Y	「ホイデネ'ー、ワ「シ'ラ、ウワジマデ、デテ、	それでね、私たちは宇和島で出て
497		「ニヤ'クスルナ'ニガオー'カッタ'ンデス'ガ、「ヤ、	荷役する何(仕事)が多かったんですが、
498		「ヒルマ、(笑)「ウワアタ'リ	昼間、宇和辺りは
499		「マンセンスルデ'シヨ'オ。「ホデ	〈満船になる〉でしょう？それで
500		ヒ'ガクレテ'カラ、フ、「ダ'スンデ'ス。ウン。	日が暮れてから、出すんです。うん。
501	MS	はあー。	※フ=軽い笑い。
502	Y	「ホ'デヨドーシハシッ'テ、「ソノツ'ギノ、	それで夜通し走って、その次の
503		「ヒルゴロ'ツク。/(笑)	昼頃に着く。※全体、笑いながら
504	S	××××。	
505	K	ちょうど、いい時間ですね。	
506	M	ふうん。	※SKMほぼ同時
507	Y	「フ'ン。「フ'ン。「ソデツカレ'ルツカレ'ル。	うん。うん。それで疲れる疲れる。
508	SKM	そうでしょうねえ。	
509	Y	「ヒ'ルニヤ'クシテ、「ヨ'ルハシ'ルケン。	昼に荷役して、夜に走るから。
510	S	はあー。	
511	K	え、大阪で、とかでは、一泊くらいして、また	
512		戻ってこられるわけですか。	
513	Y	「イヤ、オ「オサカイッ'ラ、「ソノ、「ニアゲガ'ー	いや、大阪に行ったら、その、荷揚げが
514		ヤッパ'リゾ'ー。サ「キフネガオラ'ント、	やっぱりそう。先に船がいないと、
515		く「スガケテクレ'ラ>エ'ーケド、「ナカナカ	くすぐ上げてくればいけど、なかなか
516		ゾ'ーワイカ'ンノヤッパ'リ「ナ'ー。「フネ'ガ	そうはいかないの、やっぱりね。船が
517		ツカ'ヘルコト'ガアッ'テ。ウン。「ホイデ	つかえることがあって。うん。それで
518		マ'タ「カエリ、「タダ'デカエラ'レンカ'ラ。	また帰るもただでは帰られないから。
519		「カエリノニモ'ツツ'ンデ/カエ'ルカラ。>	帰りの荷物を積んで帰るから。
520	K	帰りの荷物、また積んで。	
521	Y	ウン。ウン。「ソイデソノニモ'ツ、	うん、うん。それでその荷物を
522		「マダ'レエン。	〈待ってられない。〉
523	SM	はあー。	
524	K	向こうからはどういいう荷物を積んで。	
525	Y	ム「コー'カラヤッパ、イ「ロイロ'ヤナ'ー。	向うからはやっぱり、いろいろだな。
526		「ヒ'リョーガアッ'ラー。「ソー、ウ「ワジマヤ'ト、	肥料があったり。そう、宇和島だと、
527		マ「ホ'ボ×××、「ショーヒン'ヨ「ナ'ー。	まあ×××××、商品よね。
528		イロイロア'ラ'イ「ナ'ー。/ザッカー…	いろいろあるわね。雑貨…
529	K	こちらのほうでは、手に入らないような、品物を、	
530		大阪のほうで/積んでくるわけですか？	
531	Y	「ゾ'ーゾ'ーゾ'ーゾ'ー。ウン。「ヤワタ'ハマ	そうそうそう。うん。八幡浜に
532		ハイッ'テ「ウワジマノホ'ーノ「オロシ'ヤエ	入って宇和島のほうの卸屋へ
533		ムケ'テツンデカエ'ル/ルガヤ'ナ。	向けて積んで帰るんだね。
534	K	ええ、ええ、ええ、ええ。	
535	M	ああ、そうですか。	
536	K	へえー。	
537	Y	ウン。	うん。

538	M	へえー。	
539	Y	「ナンカソヤ'ケド、「イマー'ワヤッパ、ラ'グ'ニ	何だか、だけど、今はやっぱり楽になりましたよね。全てが。今はもう、港に入って荷役すると言ったら、船員が手伝わないでしょ。そうやって荷役会社がだあっと。 ※イマー'ー=旨いよども。
540		ナ'リマ'シタヨ'ナ。「スベ'テガ。「イ'マアモ'ー、	
541		「ミナトハイッ'テニ'ヤ'クスルユ'ータラ、	
542		「セ'ンインガ'テツド'ワンデショ'オ。「ソ'ヤッテ、	
543		「ニヤクガ'イシヤガ'ダ'ー'ツ'ト。	
544	M	(笑)	
545	K	そうですねえ。	
546	Y	ム'カシワソ'オデナカッ'タ。「ミ'ンナジ'ブンデ、	昔はそうでなかった。皆自分で中へ入らなければいけない。もっとも仲士も入ってくれるけどな。 ※ムカシワ'〜イケン=笑いながら
547		「ナ'カエハイラ'ナイケン。「モッ'トモ	
548		ナ'カセモハイッ'テクレル'ケド'ナ'ー。	
549	SKM	はあー。	
550	Y	「イ'マーモ'オ、「フネ、「フネアツケ'トツタラ、(笑)	今はもう、船をつけてしまっていたら、 ※ツケトツケラ=笑いながら もう、船員は、もう放っておいたら、船が、ちゃんと、荷役会社がちゃんと積んでくれて、おーい、荷役ができたぞ。早く出る、と言って。 ※デュー'ユ'ー'テ〜笑いながら
551			
552		「モ'ー、「センインワモ'ー'ホッ'イタラ、	
553		「フネガ、「チャ'ン'ト、ニ'ハクガ'イシヤガ	
554		「チャ'ン'ト'ツ'ンデクレ'テ、「オ'ー'イ	
555		ニ'ハ'クデキ'タ'ソ'オ。「ハヨ'オ'デ'エ'ヨ'ー'ユ'ー'テ	
556		×××。(笑)	
557	S	はあはあ、/なるほどねー。	
558	Y	「ホッ'デ'く'ハジ'ツ'サエ'××× (笑)	それで<走りさえ>××××
559	S	はあー。	
560	Y	「カワリマ'シタ'ワ。(2秒)	変りましたよ。
561	S	ナカセンって今おっしゃいました？	
562	Y	「ハ。	は？
563	S	ナカセン。	
564	Y	ナ'カセント'ワ。	「ナカセン」とは。
565	S	あ、じゃ聞き間違いでした。(笑)(M:(笑))	
566		えっと、当時、(Y:うん) えーと、荷役をするときに	うん。
567		手伝ってくれる人？	
568	Y	ウ'ン。「ナカシ。	うん。「ナカシ」(仲仕)。
569	S	ナカシ。	
570	K	ナカシ。	
571	S	ナカシ。	
572	Y	ウ'ン。「フネンナガ'アハイッ'テ'ア'ノ'オ、	うん。船の中に入って、あの、荷役をする人だね。
573		「ニヤ'クスルヒト'ヤ'ナ'ー。	
574	S	ナカシ。	
575	Y	ウ'ン。	うん。
576	S	ほおーん。	
577	Y	「ニ、「ニヤ'クスル。	荷役をする。
578	M	荷役	
579	S	荷役、をするかたのこと。	※MSほぼ同時。
580	Y	ウ'ン、ウ'ン。	うん、うん。
581	M	ナカシ。	
582	S	ナカシ。なるほどね。	※MS、お互いに確認するように。
583	Y	「センモンニオ'ル'ヨ'ナ'ー。ウ'ン。	専門にいるのよね。うん。
584	S	あー、そうですね。	
585	Y	ソデ'ミナトニチャ'ント'ソ'ー、ウ'ー、	それで港にちゃんと、その ※旨いよども 何があるから、荷役会社が。
586		「ナ'ニ'ガアル'ケン、「ニヤクガ'イシヤガ。	
587	S	はあー。なるほどねー。	
588	M	ええ、ええ。	
589	Y	ウ'ン、ウ'ン。(2秒)	うんうん。
590	S	(笑)	※整い笑い。
591	Y	「ソ、「ソレ'ガハイッ'テ、「セ'ンナイモ	それが入って、船内に

592	ハ「イッテ「ナ」ア。ウ」ン。(Sはあーん。)	入ってね。うん。
593	「トコロ'ガム「カシアンマリソレガ、	ところが昔あまりそれが
594	「スクナ'カッタン<ヤ>。(Sああ。)	少なかったんだ。
595	<「アーユーナニ'ガ。>「イ'マワモ'ー	<ああいう何が。>今はもう
596	「テッテーシテミナ'ア、「センインワソレ	徹底して皆、船員は、それ、
597	ニ「ヤ'クスルナ'ニガナイガ'ジャユー	荷役する何がないのだという
598	<フーナ'ル>。	<ふうになる>。
599	S ええ。	
600	Y ウ'ン。	うん。
601	M なんか知らない世界で、面白いですよねー。	
602	Y (笑)	

(注1)「イマシ」、(注2)「イマシ」、(注3)「イマイシニ」

『日本方言大辞典』に、「いま言(いーしに)：(話のとぎれた次に言うつなぎの言葉)今言ったように。つまり。(いまいしに))とも。」とあり、香川県の例としてあげられている。

該当部分がこの語に当てはまると考えて、ここでは「つまり」と訳したが、確実ではない。

(注4)「イツバリ」

『日本方言大辞典』「いつんぱり」の項に「①いつの間にか。いつとはなしに。」

「②いつ。」  
「③(打ち消しの語を伴う)いつも。」などの意味があり、②の意味で((いつぱり))という形が愛媛県越智郡の例として上げられている。該当部分は、①の意味に当てはまると考えて「いつとはなしに」と訳したが、聞き取り・訳とも確実ではない。

